

枚村喜則氏収集さく葉標本の整理について

井上雅仁*・松村美雪*・野上篤孝*

Arrangement of the dry plant specimen collected by Mr. Yoshinori Sugimura.

Masahtio Inoue, Miyuki Matsumura and Atsutaka Nogami

はじめに

当館では、元島根大学助教授の枚村喜則氏により収集された植物標本の整理を進めている。本標本は、同氏が1970年頃から30年以上にわたって、県内を中心に収集された「さく葉標本」であり、総点数は30,000点を超える見込みである。これまで本県には、体系的に整理・保存された植物標本群がないことから、他に類を見ない貴重な資料といえる。これらの整理が進むことで、県内の植物相の解明、希少野生植物の分布情報など、自然史研究の基礎資料になることが期待される。このような利活用に供するためには、標本を迅速に抽出・閲覧できる状態に整理する必要がある。

寄贈を受けた標本は新聞にはさまれた状態であり、博物館資料として不可欠な、①標本のクリーニング、②台紙への貼付、③データベースへの登録、④分類群毎の配架、などの作業が必要であった。そこで現在、当該標本の整理を進めており、本報では作業内容と経過について報告する。

整理の手順について

寄贈時の状態

- ・採集日などを基本として、ビニールひもで束ねてある(写真1, 1束あたり平均23点)。
- ・各束に番号あり(以下束No)。束内の種名一覧が添付されている束もあり。
ただし、標本各点には種名の記入のないものが大部分。
- ・複数の束が番号順に衣装ケースに収納。
- ・束No, 束内の植物種名を控えた手書きのリストがあり。

これらのデータを表計算ソフトに入力。以下“仮リスト”とする。

ただし、採集日や採集場所の欠落部分も多い。

整理作業

以下の①~⑫の手順で整理する計画を立て、現在は工程1を進めている。そのうち台紙への貼付までを優先的に行っており、約20,000点の台紙貼りが終了している。④および⑥以下の作業は、植物の種類を見分けることが必要であり、担当学芸員や学芸員補が作業を進めつつあるが、時間的な制約で進捗状況は芳しくない。

【工程1】

- ①束の取り出し(写真1)
- ②束の開封とクリーニング(写真2, 写真3)
- ③台紙への貼付(写真4)
- ④種名が判る場合のみ、通し番号、種名、科名を台紙に鉛筆書き(写真5)
- ⑤束毎にトレイ等に仮置き(写真6)
- ⑥標本のチェック(1)(種類、採集地、採集日などの不明点を採集者に聞き取り)
- ⑦標本データの入力(1)(科名学名、採集地などを仮リストへ補完)
- ⑧科毎に分けて仮保存(科毎のトレイ内に、ジーナスカバーに包み仮保存)

【工程2】(分類群の順で)

- ⑨標本データの入力(2)(目名、科IDなど分類関連データ、館標本No)
- ⑩標本のチェック(2)(再同定が必要な場合)
- ⑪ラベル出力、貼り付け
- ⑫標本棚への配架・保存

* 島根県立三瓶自然館, 〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根1121-8

The Shimane Nature Museum of Mt. Sanbe (Sahimel), 1121-8, Tane, Sanbe-cho, Ohda-shi, Shimane Prefecture



写真1 ①標本の取り出し



写真2 ②束の開封



写真3 ②クリーニング

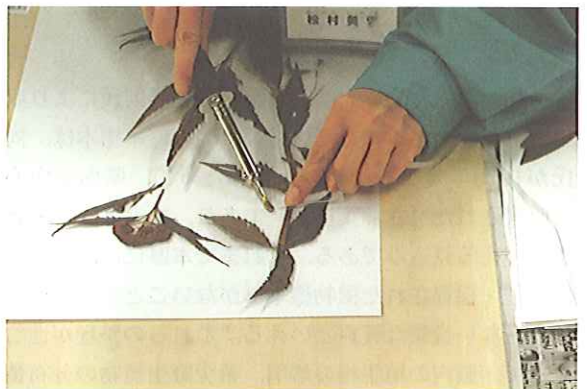


写真4 ③台紙への貼付

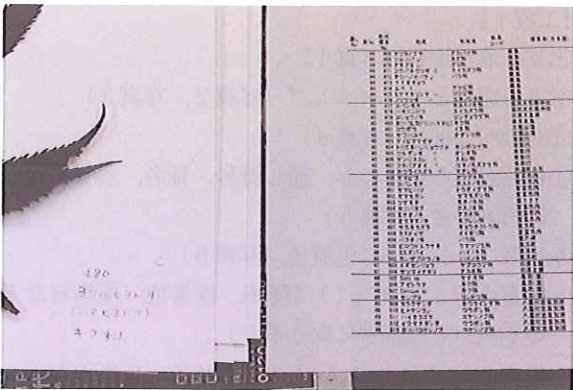


写真5 ④標本データを鉛筆で仮記入



写真6 ⑤トレイ等で仮保管

今後の展望

台紙への貼付までは、島根県より受託した平成18年度緊急地域雇用創出特別基金事業「自然系資料保存活用業務」などで人員が確保でき、当初計画を上回る作業量が終了している。ただし、それ以降の作業については、上述のとおり植物の種類を見分けることが必要であり、また採集日や採集場所の欠落データを聞き取りにより補完する必要もあり、今後の作業が急がれる。

なお、標本データの公開については、NPO法人西日本自然史系博物館ネットワークの「平成18年度自然系博物館における収蔵品データ整備に関する助成事業」により、2,000点分の公開を今春に予定している。